

がまごおりじなる特集

給食おいしい！



がまごおりじなる

学校給食は、古くから子どもたちの成長を支えています。蒲郡の給食には、「がまごおりじなる」な要素がたくさん散りばめられています。まもなく新学期を迎える今、今号では、蒲郡の給食の魅力に迫ります。

学校給食の始まり

学校生活の中の楽しみの1つとして、多くの人があげるのが、給食。日本に暮らすたくさんの方が通ってきた道です。では、学校給食は、いつから始まったのでしょうか。

歴史をたどると、始まりは明治22年。山形県鶴岡町の私立忠愛小学校で貧困する児童を対象に無料で学校給食を実施したことが、日本の学校給食の始まりとされています。その後、全国で徐々

に学校給食が広まっていきましたが、第2次世界大戦が始まり、国内が物資不足や食糧難に陥ると、昭和19年に6大都市で行われた特別配給を最後に中断されました。

国の制度として大規模に給食が導入されたのは、敗戦後の昭和21年のことです。旧日本軍の保有する食料物資やアメリカの支援団体の援助で12月24日に給食が再開し、その後急速に全国に広がっていきました。

蒲郡の給食センター

蒲郡の給食は、今は1カ所で作っていますが、その昔は東部・西部に分かれて2カ所で作られていました。現給食センターが新築されるのをきっかけに平成16年に統合されました。

給食は、ご飯・牛乳・デザートなどを除き、そのほかは全て給食センターで作られています。センターの調理設備は、汁物などを作る「煮炊き釜」、魚を焼いたりできる「焼き蒸し機」、フライヤーなど揚げ物を作る「揚げ物機」

シティセールス推進室
学校給食課
☎ 66-11225
☎ 66-11800

給食の移り変わり

- ① 日本最初の給食（明治22年）
- ② 戦後の給食（昭和22年）
- ③ ソフトめんが登場（昭和40年頃～）
- ④ ご飯が登場（昭和50年頃～）



提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター